

日本社会科教育学会 第 75 回全国研究大会（茨城大会）のご案内（2 次案内）※対面開催

日本社会科教育学会会長 唐木 清志
全国研究大会実行委員長 木村 勝彦

第 75 回全国研究大会を開催致します。現在、世界は予測がつきにくい状況の中で動いています。様々な国際紛争の勃発、予測のつかない災害の発生など私たちは、日々変わっていく世界に囲まれて生活しています。これからの未来を生きる子どもたちにとって、このような環境の中、自らの力で生きる道筋を見いだしてもらうことが必要になります。その時、社会科教育には何ができるのか。その一つの方略が「探究としての学び」ではないかと考えます。探究は社会を対象とする社会科教育では最も根本的な学びの姿であり、将来に渡って子どもたちには探究の心を持ち続けてもらいたいと考えます。今回の大会では主題を「社会科授業における探究のあり方を考える」としました。探究し続ける子どもたちの心を社会科でどのように育成していくのか、皆さんと考えたいと思います。

1. 大会主題 社会科授業における探究のあり方を考える
2. 期 日 2025（令和 7）年 11 月 15 日（土）・16 日（日）
3. 会 場 茨城大学水戸キャンパス共通教育棟
4. 主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
5. 後 援 茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、一般社団法人茨城県教育会、茨城県教育研究会
6. 日 程

第 1 日目 11 月 15 日（土）

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:15	17:30	19:30
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム (講堂)	休 憩	総会 (講堂)	移 動	懇親会 (大学生協)	

第 2 日目 11 月 16 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

※自由研究発表の発表時間は 20 分以内、質疑応答 10 分以内の計 30 分以内です。

各分科会の発表順・発表時間は次の通りです。発表者、司会者共に時間厳守にご協力ください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| (1) 9:00~9:30 | (2) 9:30~10:00 | (3) 10:00~10:30 |
| (4) 10:30~11:00 | (5) 11:00~11:30 | (6) 11:30~12:00 |

第1日 2025（令和7）年11月15日（土）

自由研究発表 I

9:00～12:00

自由研究発表 I -第1分科会

22 教室

司会者 愛媛大学 井上 昌善
琉球大学 白尾 裕志

（1）持続可能な海のあり方を考える初等社会科授業の開発—里海論を手がかりにして—

広島大学大学院博士課程後期 西畑 郁希

（2）地震にそなえるまちづくり—第4学年 もし、宇多津町に南海トラフ巨大地震が起こったら—

香川県宇多津町立宇多津北小学校／香川大学教育学部非常勤講師 河野 富男

（3）社会的分断を克服するための学力観に関する一考察—「市民化された学力」に着目して—

松阪市立漕代小学校 清水 健太

（4）グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—水産業の発展を資源保護や世界とのつながりから考える—

杉並区立天沼小学校 新宅 直人
高松市立川東小学校 黒田 拓志

（5）グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

— 社会の変化と企業のビジョンから考える「これからの日本の工業生産」—

新宿区立四谷小学校 香取 桜子
小金井市教育委員会 田村 忍

（6）若狭蔵之助の社会科実践における授業づくりの変化に関する考察

— 四つの社会科実践についての教材論からの検討を中心に —

琉球大学 白尾 裕志

自由研究発表 I -第2分科会

23 教室

司会者 国立教育政策研究所 磯山 恭子
東京学芸大学 大澤 克美

（1）小学校社会科授業における深い学びに向けた協働性の発揮—学習指導要領の改訂を見据えて—

横浜市立小学校 野間 義晴
横浜国立大学附属横浜小 新垣 力嗣
横浜国立大学附属横浜小 比嘉 将来
横浜国立大学附属横浜小 柴田 基

横浜国立大学附属鎌倉小 水野 琢磨
 横浜国立大学附属鎌倉小 岩本 賢一
 横浜国立大学附属鎌倉小 松原 直紀

(2) 生活科と社会科の接続を意識した指導の工夫—小学校2、3年生の地域理解の違いに着目して—
 東京都江戸川区立大杉第二小学校 柳沼 麻美

(3) 小学校社会科における人のエピソードの教材化に関する研究
 —看護師 Y さんの「水俣病患者への寄り添い」に注目して—
 常葉大学 木下 智実

(4) 児童の教室空間における当事者と教材世界における当事者性の検討
 —6年生「国際協力」の実践をもとに考察する—
 筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

(5) 小学校社会科授業における主体性に関する研究—責任ある応答の主体に焦点を当てて—
 愛知教育大学／筑波大学大学院 真島 聖子

自由研究発表 I -第 3 分科会

24 教室

司会者 国士舘大学 加藤 公明
 宇都宮大学 熊田 禎介

(1) オーストラリアの歴史カリキュラムにみる移行期正義—先住民族と非先住民族の学び—
 筑波大学大学院 土屋 うらら

(2) シカゴ大学時代のデューイにおける初等・中等・高等歴史教育の接続の構想とその理論的基盤
 岡崎女子大学 中村 仁志

(3) カナダ・マニトバ州における高校歴史カリキュラムの特質
 —「歴史的な見方・考え方」の明示的・具体的な指導と評価のガイドライン—
 北海道教育大学 玉井 慎也

(4) 長野県師範学校男子部附属中学校における社会科日本史学習指導の展開
 —『学習指導の手引き』の作成に着目して—
 信州大学 篠崎 正典

(5) 日韓の歴史教育理論における教授学習論と学校現場での反応
 —1990 年代の『歴史教育論集』の分析をもとにして—
 兵庫教育大学 福田 喜彦

(6) 韓国現代史における「過去事」清算と歴史教育—ベトナム戦争を事例にして—

筑波大学 國分 麻里

自由研究発表 I -第 4 分科会

25 教室

司会者

上越教育大学

茨木 智志

湘南白百合学園中学・高等学校

熊本 秀子

(1) 歴史学習・歴史的分野における小中連携授業

埼玉県川越市立高階中学校

吉田 基

(2) ウェルビーイングの視点をふまえた中学校社会科・歴史的分野の授業研究

—生徒の Well-being を規定する要因の特定に向けて—

筑波大学附属中学校

山形 友広

(3) 中学校社会科歴史副読本『琉球の歴史』の特徴—版による違いに着目して—

琉球大学博物館

萩原 真美

(4) 高校歴史総合に接続するには中学校歴史はどうすべきか

札幌大学

兼間 昌智

(5) 十五年戦争期の思想・言論・情報統制に関する教科書分析—中学校歴史的分野を中心に—

湘南白百合学園中学・高等学校

熊本 秀子

自由研究発表 I -第 5 分科会

26 教室

司会者

筑波大学

玄 在均

東海大学

斉藤 仁一朗

(1) 持続可能な社会をつくっていく態度を育成する単元開発

—JICA 教師海外研修の学びと外部人材の専門性を生かした実践から—

取手市立永山小学校

土屋 啓一

(2) 初等教育における金融消費者教育のカリキュラム開発に関する基礎的研究

—金融（消費者）非認知能力に関する教師の意識を手掛かりとして—

信州大学

田村 徳至

(3) セーフティーネット社会科経済学習の単元開発（その 1）

田園調布学園大学

竹澤 伸一

(4) 教育学部における「憲法」教育の現状と課題

岩手大学 菊地 洋

(5) 社会保障教育における「集団間の利害対立」に関する調査研究

—社会科・公民科教師へのインタビュー調査をもとにして—

東海大学 斉藤 仁一朗

自由研究発表 I -第 6 分科会

27 教室

司会 山梨大学 服部 一秀

東北学院大学 坪田 益美

(1) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—共に生きていくことの大切さを考える学習問題と学習活動の工夫—

立川市立若葉台小学校 久留 申大

葛飾区教育委員会 田辺 留美子

(2) 特別支援学級における個に応じた学びをつなぐ社会科授業

—調べ学習を通して外国人家族に地域を紹介する実践—

愛知県高浜市立高浜小学校 神谷 太一

(3) 社会参画の視点に基づく多文化協働学習に関する研究

—「インターカルチュラル・コンピテンシー」の量的および質的調査—

埼玉県春日部市立武里中学校／筑波大学大学院 小谷 勇人

(4) 社会正義志向の市民性はいかに形成されるのか

—マイノリティに関する問題に取り組んだ生徒へのインタビュー調査を通して—

茨城県立水海道第一高等学校 後藤 慎太郎

(5) 「真正な対話」にもとづく相互理解教育の再構築

—「戸惑いの教育学 (Pedagogy of Discomfort)」からの示唆—

広島大学 金 鍾成

自由研究発表 I -第 7 分科会

32 教室

司会 熊本大学 藤瀬 泰司

筑波大学名誉教授 井田 仁康

(1) DSD アスリートをめぐる議論を通して考える平等

—結果の公正と機会の公正を手がかりとして—

上越教育大学附属中学校 二宮 昌史

(2) 個人と国家からとらえる戦争を題材とした単元の開発-「自覚的解釈的レリバンス」を用いて-

追手門学院中・高等学校 梶 哲

追手門学院中・高等学校 木村 直哉

(3) 世界人権宣言で学ぶ国際人権—人権パスポートによる人権教育の事例—

アムネスティ・インターナショナル日本 内藤 裕子

(4) 宮城県石巻市「私設平和資料館」の歴史実践

岩手大学 宮崎 嵩啓

(5) 意思決定型学習における法的思考・判断と在り方・生き方に関する一考察

—エージェンシーの観点による障害者の教育権をめぐる授業実践の再検討—

香川大学 鈴木 正行

(6) 平和教育における地球市民の概念についての考察

都留文科大学 西尾 理

自由研究発表Ⅰ-第8分科会

33 教室

司会者 東京学芸大学 押井 那歩
群馬大学 栗谷 好子

(1) 教育の成果は社会に届いているか—主権者教育の実践と卒業生追跡調査から考える—

東京都足立区選挙管理委員会事務局／元足立区立第四中学校 山田 勝之

(2) 学習者の成長を見取る社会科教育評価の変革とその在り方

—E.W.アイズナーの教育的鑑識眼を手掛かりに—

壬生町立壬生北小学校 松本 隼人

(3) 社会科授業における情報共有の活動機会の民主主義的価値の検討

盛岡市立黒石野中学校 細川 遼太

(4) 自由で尊厳ある社会を目指す国際問題学習の構想

—中学校社会科と高校公民科との接続を意識して—

静岡県立清水南高等学校・同中等部 増本 真也

(5) 高校生の国家意識の現状と構造—三校アンケート調査による量的分析—

(6) 高校生は探究学習のなかでどのように熟議したか

—高等学校公民科「公共」における授業のコミュニケーションの分析研究—

お茶の水女子大学 大脇 和志

お茶の水女子大学附属高等学校 飯島 裕希

自由研究発表 I -第 9 分科会

34 教室

司会者 広島大学 宇都宮 明子

宮崎大学 藤本 将人

(1) 高校生が自身の「社会参加」の形成要因を認識する公民科単元の開発

—ブロンフェンブレンナーの生態学的システム論を基盤にして—

京都教育大学大学院 小森 洋志

大阪市立春日出中学校 神近 篤志

京都教育大学大学院 平岡 慎也

京都教育大学大学院 横田 ゆう

京都教育大学大学院 黒川 侑馬

京都教育大学大学院 川端 航輔

京都教育大学 小栗 優貴

(2) 公共空間を担う市民の育成を目指す中学校社会科公民分野の授業の開発

—香川県ネット・ゲーム依存症対策条例を事例に—

愛知教育大学教職大学院 山田 哲也

(3) へき地単学級における中学校社会科公民導入単元の開発・実践

—大単元「私たちの町から見ると、現代社会は『良い社会』と言えるか?」の場合—

北海道厚岸町立真龍中学校 佐藤 健翔

(4) ケアの視点による高校公民科での授業開発—「難民問題」を題材に—

筑波大学研究生 小島 江津子

(5) 「多様性の包摂」のための学習に果たす Equity の意義と課題

東京学芸大学 川崎 誠司

自由研究発表 I -第 10 分科会

35 教室

司会者 北海道教育大学釧路校 山元 研二

静岡大学 村井 大介

- (1) キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育む社会科の単元デザイン・授業づくり
—これからの社会を創造しようとする児童の育成を目指して—

福島大学教職大学院教職実践研究科 吉田 亘

- (2) 「概念活用学習」としての公民科「倫理」の授業構成と学習観の形成
—先哲の思想を使って現実を認識する対話と論述から—

東京都立新宿山吹高等学校 杉浦 光紀

- (3) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習
—命を守る医療支援活動を基に、これからの国際協力を考える—

豊島区教育委員会 生沼 夏郎

那覇市立石嶺小学校 安田 浩哉

沖縄県教育庁 諸喜田 繁

- (4) プラットフォームビジネスの経済的側面と憲法・情報法・競争法の位置づけに関する分析
—小中学校社会科・高等学校公民科における教材化の試み—

愛知教育大学 保立 雅紀

- (5) 日米親善「青い目の人形」に関する教材研究—交流 100 周年を迎えるにあたって—
鳴門教育大学／名古屋学芸大学

西村 公孝

自由研究発表 I -第 11 分科会

36 教室

司会者 山口大学 田本 正一
昭和女子大学 升野 伸子

- (1) 性の多様性から社会的課題を探究する市民育成を目指した授業開発
—小学校第 6 学年の単元開発と実践を通して—

愛媛大学教職大学院 柚山 由紀野

- (2) 「政治的主体」を育成する「主体的な学び」の探究— 集団主義的な社会科学習観から —
大阪産業大学 宅島 大晃

- (3) 主権者意識に基づく「当事者性」の批判的検討
—政策対話シミュレーションの実践から考える当事者性の育成—

岡山理科大学 紙田 路子

- (4) 高校生の社会 Design と IDGs の起点— agency 「敏感期」としての十代の困難当事者 —
東京経済大学 大滝 修

(5) 「教育の宗教的中立性」の構成と社会科教育との関わり

文教大学 塚田 穂高

(6) 正統的周辺参加としての市民的实践—語り方に注目して—

山口大学 田本 正一

自由研究発表Ⅰ-第12分科会

37 教室

司会者 東洋大学 須賀 忠芳
岩手大学 今野 日出晴

(1) よりよい価値判断・意思決定を図る社会科授業—小学校6年 歴史分野の学習を通して—

千葉市立幸町第三小学校 杉中 健志

(2) 憲法的価値・憲法的原理の習得を目指した歴史授業
—中学校歴史的分野の「市民革命」を題材に—

江東区立深川第五中学校 阿部 哲也

(3) 生徒の主体的な学びを引き出す指導の工夫と検証—中学校社会科歴史的分野の事例を通して—

東京都中央区立晴海西中学校 種藤 博
愛知東邦大学 白井 克尚

(4) 戦後直後の名古屋市の社会科教育研究の展開と課題-新教育の社会科らしい授業づくりを中心に-

至学館大学 出井 伸宏

(5) 「世界平和と人類の福祉の増大」の指導の工夫 2—主体的に学ぶ生徒の育成—

江東区立第二砂町中学校 仲村 秀樹
連雀学園三鷹市立第一中学校 木村 諭

自由研究発表Ⅰ-第13分科会

47 教室

司会者 早稲田大学 池 俊介
元東京学芸大学 荒井 正剛

(1) 武田氏の秘密を地理院地図で読み解く—地理院地図の効果的な技能取得をめざした授業試案—

早川町立早川中学校 望月 大

(2) 学習手法「ミステリー」を用いた中学校社会科地理的分野における単元デザイン
—思考力・判断力・表現力の学習評価に着目して—

群馬大学大学院 原口 勝幹

- (3) マジョリティ特権を捉えさせる中学校地理的分野の授業実践
ー東北地方における伝統の断絶・継続を事例としてー

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 徳永 生
上尾市教育委員会 杉原 慎一

- (4) 観光を題材とした人文地理学における授業開発と成果

北翔大学短期大学部 菊地 達夫

- (5) アメリカ地理スタンダード(2012年版)における「地理の利用」の系統
ー「持続可能性」の地理的概念としてー

宮城教育大学 吉田 剛

- (6) 平成10年版中学校社会科地理的分野の特質と意義ー地誌学習本質論の観点からー

群馬大学名誉教授 山口 幸男

昼食・休憩

12:00～13:30

※生協食堂やキッチンカーをご利用ください。

※参加者休憩室(31 教室)にはお菓子やお飲み物を準備しておりますので、ご自由にご利用ください。

評議員会

12:00～13:30

※共通教育棟1階12教室にて行います。

社会科授業における探究のあり方を考える

〔趣旨〕

情報化やグローバル化が進展する中で多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが困難になりつつある現代社会において、子どもたちひとりひとりに生涯にわたって「探究」を深める社会の形成者としての資質・能力を育成することが、これまで以上に重要となっています。

社会科において「探究」の重要性が言われて久しいですが、主体的・対話的で深い学びや、個別最適な学び、協働的な学び、そして高等学校地歴科の選択科目として新設された科目の名称など、「探究」という言葉の背景にはさまざまな学習のあり方があります。このことを踏まえると、「探究」として思い描く学習のあり様は、教師・研究者ひとりひとりで異なるのではないのでしょうか。

シンポジウムでは、各学校段階や各分野での「探究」の実際を登壇者の先生方にご報告いただき、それらをもとに、「探究」の多様なあり方とその共通項について、検討していきます。

コーディネーター：茨城大学 木村 勝彦
 広島大学 川口 広美
 コメンテーター：筑波大学 金 玟辰

シンポジスト・テーマ

- (1) 小学校社会科における探究の姿とは—小学校高学年社会科の授業をもとに—

玉川大学 梅田 比奈子

- (2) 公民としての資質・能力の基礎を育成する探究的な学びの在り方

—中学校2年生の実践と省察を通して—

つくば市立春日学園義務教育学校 奥谷 大樹

- (3) 探究としての歴史学習は何をめざすべきか

—中等歴史单元「戦争体験の継承について考えよう」の場合—

立命館大学 角田 将士

- (4) 社会的論争問題の共同的な探究によるより良い社会を考える公民科授業

—税と社会保険のあり方を考える授業の開発—

宮崎大学 吉村 功太郎

休憩

16:00～16:15

総会

16:15～17:15

※講堂にて行います。

第2日 2025（令和7）年11月16日（日）

自由研究発表Ⅱ

9:00～12:00

自由研究発表Ⅱ-第1分科会

22 教室

司会者 群馬大学 宮崎 沙織
玉川大学 梅田 比奈子

（1）グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

ー国境なき医師団等の事例を基に、今後我が国が果たすべき役割を多角的に考えるー

江東区立八名川小学校 山田 ちひろ
国士舘大学 秋田 博昭
小金井市立緑小学校 向井 隆一郎
江東区教育委員会 松尾 美希

（2）社会科授業のユーモア論的研究ー有田和正実践の発展的継承を目指してー

東京学芸大学附属竹早小学校 恒川 徹

（3）沈黙のなかの思考ー子どもの非発話時における思考過程に関する研究ー

京都教育大学附属桃山小学校 宮川 史義

（4）副読本からみた小学校中学年カリキュラム編成の課題と方向性ー探究学習を見据えてー

三重大学非常勤講師 井川 和道

（5）小学校における変革型サービス・ラーニングのカリキュラム開発（2）

ーWestheimer らの「慈善」と「変革」の議論を手がかりとしてー

東京都立川市立第一小学校 松本 武

自由研究発表Ⅱ-第2分科会

23 教室

司会者 東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘
福島大学 初澤 敏生

（1）生徒が問いを構築する世界地誌学習ー社会科教育における「主体性」の一考察ー

京都市立久世中学校 弘田 真基
大阪人間科学大学 金子 遙

（2）民俗学的なアプローチによる中学社会の授業ー地理分野における民話の利用と生徒の学びー

東京大学教育学部附属中等教育学校 南澤 武蔵

（3）北海道 MM 教育による地域解決モデルの開発

－札幌市民の一員として、よりよい未来のまちを志向する文脈のある学び－

北海道文教大学 佐々木 英明
札幌市立山の手南小学校 樋渡 剛志

(4) 小・中学校社会科における「世界の学習」の系統的接続と拡充

－地球的視野を育む世界像の基礎形成に向けて－

開智国際大学 竹内 裕一
筑波大学人間総合科学学術院／埼玉県越谷市立増林小学校 中山 正則
茨城大学名誉教授 村山 朝子
創価大学非常勤 吉田 和義

(5) 小学校社会科教育における身近な地域の学習の展望と課題

－学校の地域特性を踏まえた地域観察を取り入れて－

筑波大学人間総合科学学術院／埼玉県越谷市立増林小学校 中山 正則
開智国際大学 竹内 裕一
茨城大学名誉教授 村山 朝子
創価大学非常勤 吉田 和義

(6) 自然風景を再構成する小学校社会科国土学習－第5学年「国土の地形の様子」を事例として－

学習院初等科／学習院大学教職課程兼任講師 大矢 幸久
学習院初等科 金子 範明

自由研究発表Ⅱ-第3分科会

24 教室

司会者 埼玉大学 桐谷 正信
岡山大学 山田 秀和

(1) PBL 型社会科授業による「社会をつくる力」の育成

千葉県浦安市立東野小学校 柳 圭一

(2) 社会科における「学びに向かう力、人間性等」に関する一考察

－「市民性」の涵養を目指した社会科授業を通して－

糸魚川市立糸魚川中学校 仙田 健一

(3) 子どもがデザインする授業

－自ら手続きを選択・設計することを中心にして－

信州大学教職大学院／御代田町立御代田中学校 宮川 悠

(4) 中学校社会科における単元内自由進度学習を通じた生徒の学び

－自己調整と概念的な理解に焦点を当てて－

富谷市立成田中学校 守 康幸
宮城教育大学附属中学校 沓澤 遥

- (5) 深い学びを実現する主体的・対話的授業の試みー中学校社会科の授業を通してー

静岡学園中学校・高等学校 市川 重男

- (6) 「課題の設定」を重視した中学校社会科の授業実践

ーパウロ・フレイレの教育論における「世界を読む」という営為を手掛かりにー

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 村越 俊

自由研究発表Ⅱ-第4分科会

25 教室

司会者 埼玉大学 小貫 篤
千葉大学 阪上 弘彬

- (1) 論争問題学習の指導法を学ぶことに教員志望学生はどのような意味を見出したか？

ーSAC を活用した教員養成プログラムの検証を通してー

鹿児島大学 岩崎 圭祐
お茶の水女子大学 植原 督詞
愛媛大学 井上 昌善

- (2) 日本軍「慰安婦」問題を教える社会科教師のゲートキーピング

ー日本軍「慰安婦」問題を取り巻く社会的政治的な文脈の変化と教授法の関係性に着目してー

北海道教育大学 星 瑞希

- (3) 教員志望学生は地域に根ざした困難な歴史をなぜ、どのように授業開発したのか

北海道教育大学 星 瑞希
鹿児島大学 岩崎 圭祐

- (4) 教員養成で身近な地域の課題解決史を探究する学習の意義と可能性

ー小学校教員養成課程での「社会科教育法」の授業実践を通してー

静岡大学 村井 大介

- (5) 小学校教員養成のための社会科教育内容に関する研究

ー教科教育と教科専門の協働による初等社会科教育内容の創出ー

文教大学 伊藤 裕康
愛知教育大学 伊藤 貴啓

- (6) 教職科目「社会科・地歴科教育論」の実践報告

学生は白鳥晃司実践「冤罪?～死刑制度は是か非か～『袴田事件』から考える」をいかに分析し、

自由研究発表Ⅱ-第5分科会

26 教室

司会者 立命館大学 角田 将士
富山大学 岡田 了祐

(1) 中動態の表現様式に着目した小学校社会科の単元デザイン

酒田市立一條小学校／山形大学教職大学院 渡邊 圭亮
山形大学教職大学院 江間 史明

(2) 小学校における 1920 年代前半の郷土教育

－「茨城県教育改善案」にみられる郷土研究の記述を中心に－

筑波大学大学院 佐藤 美涼

(3) 総合的な学びに重点をおいた歴史カリキュラム開発－災害を題材とした授業開発を手がかりに－

愛知県立刈谷北高等学校 堀田 貴之

(4) 民主主義を評価する世界史授業の実践－ペリクレス、ソクラテス、アリストテレスの議論から－

埼玉県立久喜北陽高等学校 今 陽童

(5) 社会科の教材を開発する能力を育成する取り組み－加曽利貝塚を事例に－

植草学園大学 梅澤 真一

自由研究発表Ⅱ-第6分科会

27 教室

司会者 東京学芸大学 日高 智彦
開智国際大学 山本 勝治

(1) 災害史を活用した歴史授業の役割－歴史像を構築する近世・近代史料を用いた教材開発－

兵庫教育大学連合大学院／糸魚川市立糸魚川中学校 佐藤 優一

(2) 過去と現代を結びつける社会科歴史授業の開発・実践

－分国法 喧嘩両成敗に着目した事例を通して－

愛知教育大学教職大学院 鶴嶋 英輝

(3) 「歴史を描く」実践を軸とする高等学校「日本史探究」のカリキュラム構想

奈良女子大学附属中等教育学校 藤井 正太

- (4) 「概念」を意識した日本史探究の単元構成とその課題
 —生徒は古代の中央集権化をどのようにとらえたのか—

東京都立江戸川高等学校 須郷 一史

- (5) 教員養成系大学における「人権の課題」の取り扱いに関する研究
 —教科教育法における「ハンセン病問題の授業」から—

北海道教育大学釧路校 山元 研二

- (6) 探究的歴史学習を担える教員の養成を目指したカリキュラムの構築に向けて
 —教職課程における教科専門科目と教科教育法科目の連携の試み—

開智国際大学 山本 勝治

自由研究発表Ⅱ-第7分科会

32 教室

司会者

東海大学

藤井 大亮

筑波大学附属視覚特別支援学校

丹治 達義

- (1) 「個人の声がきこえる史料」を用いた歴史総合の授業開発・実践
 —生徒の批判的思考力を育むために—

愛知教育大学教職大学院 岡田 陸

- (2) 「外的な評価」と「内的な評価」の「節合」分析—科目「歴史総合」を事例に—

東京都立高島高等学校 吉原 大貴

- (3) 逆向き設計を利用した「歴史総合」概念型学習カリキュラムの実践(1)
 —UbDシートを活用した大単元「近代化と私たち」の授業実践—

青森県立青森高等学校 金子 勇太

北海道札幌南高等学校 本間 靖章

- (4) 逆向き設計を利用した「歴史総合」概念型学習カリキュラムの実践(2)
 単元の概念構成図を使った大衆化と現代的な諸課題の授業実践

北海道札幌南高等学校 本間 靖章

拓殖大学 荒井 雅子

立教新座中学校・高等学校 石和田 京子

- (5) 歴史をどの程度私ごとに出来たのか(2)

—歴史総合における自校史教材を生徒はどのように評価したか—

拓殖大学 荒井 雅子

立教新座中学校・高等学校 石和田 京子

- (6) 川崎市教育研究所『地歴並行学習の研究』（1977年）の成立とその構成
 —その社会科教育史における位置づけを中心に—

開智国際大学 大木 匡尚

自由研究発表Ⅱ-第8分科会

33 教室

司会者 成蹊大学 二井 正浩
 宇都宮大学名誉教授 溜池 善裕

- (1) 博物館における子どもと学芸員の協働的な歴史探究
 —刈谷市歴史博物館でのアクションリサーチ—

広島大学大学院 中村 賢治
 愛知教育大学教職大学院 鶴嵩 英輝

- (2) 歴史的思考をめぐる歴史教育の新たな展開：歴史家との関係性への着目

広島大学大学院 中村 賢治

- (3) 人文情報学を活用した歴史教育研究—デジタル・アッシリア学を手がかりにして—

常磐大学高等学校 丸小野 壮太
 筑波大学大学院 大森 雄基

- (4) 歴史学習における思考力の可視化—教師と学習者の共同による学習評価改革を通して—

共栄大学 橋本 隆生

- (5) 元生徒へのインタビューによる授業の振り返り

—「関東大震災と阪神・淡路大震災」（2001年実践）を対象に—

立命館大学 中西 仁

自由研究発表Ⅱ-第9分科会

34 教室

司会者 横浜国立大学 鈴木 允
 開智国際大学 竹内 裕一

- (1) 「令和の日本型 Well-being」の達成を目指した社会科カリキュラムの開発研究

千葉大学大学院 松島 広輔

- (2) 開発途上国における社会科教育研究の意義とその倫理性

—カンボジアの教育実践に向き合う中で—

四天王寺大学 守谷 富士彦

(3) こどもの自然体験に関する実態調査

ー横浜市新治市民の森での自然体験の現状から探る森林の学習の在り方(2)ー

横浜創英大学	根本 徹
環太平洋大学	木野 正一郎
神村学園専修学校	田中 浩之

(4) 外部連携を通じた社会問題学習の授業に関する基礎的研究

ー授業計画・実践前の教師の実践意識ー

長崎大学	土肥 大次郎
------	--------

(5) 子どもの素朴知の変容を促す社会科授業づくり (1)

ー中堅教員の授業づくり支援を事例にしてー

熊本大学	藤瀬 泰司
熊本大学教育学部附属中学校	立川 桂佑
熊本大学教育学部附属中学校	山本 翔

(6) 日本社会科教育学会における女性会員の位置 ー学会役員・学会誌・大会発表の分析ー

筑波大学	國分 麻里
筑波大学研究生	小島 江津子

自由研究発表Ⅱ・第10分科会

35 教室

司会者	大阪教育大学	峯 明秀
	秋田大学大学院教育学研究科	外池 智

(1) 日本における歴史修正主義—1990年代から現在までの展開—

広尾学園中学校高等学校	高瀬 邦彦
-------------	-------

(2) 「歴史の扉」におけるジェンダー視点を取り入れた授業開発

ー生徒会誌を歴史資料として活用する試みー

栃木県立宇都宮中央高等学校	阿久津 祐一
---------------	--------

(3) 満蒙開拓と戦後開拓—聞き取り調査を中心に—

土浦日本大学高等学校	栗林 幸雄
------------	-------

(4) 中学校において歴史的推論を促す授業開発と評価 ー教科書記述の比較を通じてー

芝浦工業大学柏中学高等学校	田巻 慶
広島大学	池尻 良平

(5) 困難な歴史と現代社会の課題の接続に関する授業開発の研究ーアイヌ民族に着目してー

北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程 澤田 康介

(6) 戦後 80 年における「次世代の平和教育」の現状と課題を踏まえた教育実践の構築(1)

ー広島市を事例としてー

秋田大学大学院教育学研究科 外池 智

自由研究発表Ⅱ-第 11 分科会

36 教室

司会者 宮崎大学 吉村 功太郎

東京学芸大学 渡部 竜也

(1) 社会的場面を想定したアンガーマネジメント教育の教材化

ー「ソーシャルアンガーマネジメントゲーム」の開発と実践ー

千葉市公立学校 石川 祐基治

(2) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発

＝素材と品質にこだわる館づくり＝

前立正大学 石橋 昌雄

東京都板橋区立板橋第五小学校 西谷 秀幸

東京都新宿区立四谷小学校 生井 香穂理

東京都小金井市立小金井第一小学校 丸野 陽子

東京都清瀬市立清瀬第三小学校 北形 好子

東京都大田区立立新井第二小学校 八千代 歩

東京都北区立都の北学園 堀間 康平

東京都板橋区立板橋第五小学校 佐藤 美緒

東京都板橋区立板橋第四小学校 佐々木 彩羽

(3) 10 年間の「高校 3 年生の政治意識」を分析するー政治的無関心への再考ー

上宮高等学校 田中 智和

(4) 高等学校公民科と技術者倫理教育の接続ー哲学対話とケーススタディの活用ー

信州大学 松島 恒熙

広島修道大学 嶋崎 太一

長野工業高等専門学校 川合 大輔

(5) 地理歴史科・公民科における「持続可能な社会」単元とその課題ー探究学習の観点からー

高千穂大学 鈴木 隆弘

(6) デジタル化した NIE による主権者教育の在り方ーデジタル新聞の「縦読み」を事例にしてー

福井大学 橋本 康弘
福井新聞 菊野 昭彦

自由研究発表Ⅱ-第12分科会

37 教室

司会者 東京学芸大学 川崎 誠司
広島大学 金 鍾成

(1) 金融経済教育における「社会保障」の位置づけと在り方

専修大学 宮崎 三喜男

(2) 子どもの投票意欲と政治的社会化ー主権者教育に関する調査データからー

白鷗大学 市島 宗典

(3) 付属高校地理歴史科特設科目における高大産連携授業の取り組み

ー「食のグローバル化」と「循環型社会」をテーマにしてー

専修大学松戸高等学校 泉 貴久

(4) バックキャスト思考で考える地域課題解決型学習の提案

ー中学校地理的分野「中国・四国地方」を題材にー

お茶の水女子大学附属中学校 寺本 誠

(5) 「公正」を中核概念とした小学校社会科第6学年のカリキュラム開発

ー政治と歴史の単元を通じたエージェンシーの発揮と育成ー

山形大学 江間 史明

(6) 課税の意図と効果について考える中学校社会科公民的分野の授業ーエネルギー政策に着目してー

広島修道大学 永田 成文

三重大学名誉教授 山根 栄次

皇學館大学 萩原 浩司

津市立久居西中学校 増田 直史

昼食・休憩

12:00～13:00

※生協食堂やキッチンカーをご利用ください。

※参加者休憩室（31 教室）にはお菓子やお飲み物を準備しておりますので、ご自由にご利用ください。

課題研究Ⅰ 子どもたちによる社会科を学ぶ意味づけを教師はどのように考慮すべきか

〔趣旨〕

社会科教育では長らく、子どもたちが学ぶ意味を実感できる工夫を教師が施すことが重要視されてきました。子どもたちは社会科授業で得た学びを自らの社会生活に意味づけることが期待されているとともに、教師はそれを促す必要があります。しかし、社会科での学びを子どもたちが意味づける先には、他の学習場面や日常生活、将来の生活など多様な意味づけがあります。その多様な意味づけを研究者はどのように捉えられるか、またそれを教師はどのように社会科授業に反映することができるのか、考えたいと思います。

コーディネーター：敬愛大学 佐藤 孔美

東洋大学 中平 一義

指定討論者：富山大学 岡田 了祐

報告

(1) 教材世界における児童の立場と当事者性の検討—授業省察と改善を通しての考察—

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

(2) 中学校社会科における歴史論争問題学習の評価方略に関する事例研究

—教育者から学習者へのフィードバックに着目して—

四日市市立富洲原中学校／兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 松村 謙一

(3) 価値判断の関係性を可視化する授業研究—生徒のインタビュー調査をふまえて—

沖縄県立八重山農林高等学校 米田 美由紀

課題研究Ⅱ 社会科教育はAI時代に生きる子どもたちをどのように育成するか

〔趣旨〕

AI技術は急速に進歩しており、私たちはさまざまな場面でAIと関わるようになりました。AIは人間のより快適な生活やより良い社会の実現に向けて活用されるべきものですが、その活用のためにはAIが示す情報を批判的に検討するといったリテラシーが必要となります。また、今後多くの仕事がAIに取って代わるといった予測がある中で、AI時代の社会の形成者として必要な資質・能力とはどのようなものなのでしょうか。到来しつつあるAI時代における社会科教育の在り方について、議論します。

コーディネーター：東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

横浜国立大学 重松 克也

報告

(1) 小学校社会科における対話型AIサービスの利活用とその課題

—児童及び授業者に見られる課題と今後の展望—

東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

(2) AI活用をしている社会的事象の教材化

—中安農園（いちご栽培）を事例にAI時代の授業デザインを探る—

(3) 社会科教育はAI時代に生きる子どもたちをどのように育成するか

—フェイクニュースやエコチェンバーと生成AI—

奈良女子大学附属中等教育学校 二田 貴広

課題研究Ⅲ 社会科における災害・防災教育は今後どうあるべきか

〔趣旨〕

本学会では、社会科教育における防災教育のあり方を継続的に議論しており、直近の全国研究大会では、2020年の筑波大会において防災教育の継続性を議論してきました。そのような中、2024年元日に「能登半島地震」が発生し甚大な被害をもたらしたとともに、8月には「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発令されました。この発令を受けての対応は地域によって分かれ、閉鎖をする海水浴場があった一方、通常通り開設した海水浴場もあったと報じられました。こうした災害に関する不確実性の高い情報に対し、すべき行動を自ら判断できる子どもたちの育成のために、社会科教育は何ができるのか、議論を深めていきたいと思います。

コーディネーター：早稲田大学 池 俊介

東京学芸大学 日高 智彦

報告

(1) よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う社会科学習指導の在り方

—小学校第4学年「自然災害からくらしを守る」における社会的事象と自分の生活に関連付け、選択・判断する学習活動の工夫を通して—

茨城町立葵小学校 戸井田 竜也

(2) 防災教育の視点に立った中学校地理的分野のカリキュラム開発

—単元「地域の在り方」におけるフィールドワークの授業実践への接続—

東京学芸大学附属世田谷中学校 村木 龍太郎

(3) 高等学校『地理総合』における地図学習と防災・減災

—主体的に取り組む自助と共助の視点から—

東京学芸大学附属高等学校 栗山 絵理

課題研究Ⅳ 社会科における外国研究の展望を探る

〔趣旨〕

日本の社会科教育の在り方に対し、影響を与えてきた外国研究ですが、近年では様々な変化を経験してきました。外国の優れた実践・教材などを分析する研究だけでなく、外国の研究者・実践者と協働して実践を提案する国際共同研究が登場するなど研究の在り方が多様化し、また科研費による研究活動では国際性の確保（国際共著など）が求められています。このような状況下において、外国研究はこれからどのようにあるべきなのでしょう。これまでの外国研究の流れや近年の動向を踏まえつつ、方法論や学会での成果の共有や還元方法、そして意義などの視点から議論したいと思います。

コーディネーター：千葉大学 阪上 弘彬
 明治学院大学 佐藤 公
 上越教育大学 茨木 智志
 指定討論者：筑波大学名誉教授 井田 仁康

報告

(1) なぜ私は外国研究を続けるのか—日常のシティズンシップ教育実践から見えてきたもの—

広島大学 川口 広美

(2) 外国の社会科教育史研究の魅力と難しさについて—「教科」の枠組みの強みと狭さに注目して—

東海大学 斉藤 仁一朗

(3) 日本を「外」国として位置づけた地理教育研究の事例

—日本の「内」で研究する外国人研究者の立場から—

関西外国語大学 YANG JaYeon

課題研究Ⅴ 小学校教員養成において社会科の専門性をどのように育成するか

〔趣旨〕

現在、中央教育審議会の教員養成部会では、生涯学び続ける教師としての能力形成という観点から、養成段階（特に大学、短期大学）で担保すべき能力はどのようなものであるべきか、議論が進められています。また、高度専門職としての教師の役割、教師不足の状況等を踏まえ、教員免許状の標準を二種免許状相当とすることも検討され始めています。そこで、本課題研究では、必ずしも社会科教育を専門としない小学校教員の養成段階に着目し、社会科の専門性育成のあり方について対話・議論を深めてみたいと思います。

コーディネーター：宇都宮大学 熊田 禎介
 玉川大学 樋口 雅夫
 指定討論者：玉川大学 小谷 恵津子

報告

(1) 社会科授業で子どもの学びを保障する初任者教員の育成

—学校教育現場への聞き取り調査と教員育成指標に着目して—

北海道教育大学旭川校 植田 真夕子

(2) 小学校教員養成における社会科の専門性育成の在り方に関する一考察

—教員入職後における社会科教員としての力量形成の視点から—

宇都宮市立旭中学校 小栗 英樹

(3) 小学校教員養成の課題と研究力の育成—養成と研修をつなぐ大学教員の役割—

愛知教育大学／筑波大学大学院 真島 聖子

大会関連情報

(1) 大会参加費（不課税）

一般会員：3,000 円（事前登録）／3,500 円（当日受付）

学生・院生会員：2,500 円（事前登録）／3,000 円（当日受付）

非会員：3,500 円（事前登録・当日受付）

※ 本学会は免税事業者のため、インボイス登録番号はございません。

(2) 懇親会（事前登録のみ）

参加費：4,000 円（税込 10%）

会場：茨城大学生協食堂

時間：17 時 30 分～19 時 30 分

(3) 昼食

大会当日は両日ともに大学構内の生協食堂が開いているほか、数台のキッチンカーが大学構内で出店します。お弁当などを食べる際は休憩室や分科会会場をお使いください。シンポジウム会場である講堂での食事はご遠慮ください。

(4) 大会参加の事前登録について

- ①大会参加の事前登録および参加費の支払いは、**6 月 2 日（月）から開始**しております。本学会 HP の【大会参加（事前登録）申込フォーム】で事前登録と参加費の支払い（クレジットカード決済または銀行振り込み）を行ってください。事前登録と参加費の支払いの両方を終えて大会参加の申込が完了します。片方だけでは参加申込完了とはなりませんのでご注意ください。
- ②事前登録申込終了後、「受付番号」が自動送信されます。また、お支払いについて「銀行振込」を選択された方はお振込先口座が自動送信メールにて届きます。自動送信メールが送られてこない場合は、申込フォームに記載のある連絡先までお問い合わせください。
※参加登録受付業務は株式会社コムラに委託しております。なお、事前参加申込受付期間終了後の参加キャンセルおよび返金への対応はいたしかねます。
- ③大会参加事前登録の締切は**10 月 3 日（金）**です。事前登録期間が終了した後の参加キャンセルは、大会実行委員会（E-mail：jass75ibaraki@gmail.com）に直接ご連絡ください。
- ④事前登録をされる場合、緊急時の連絡先メールアドレスをご登録ください。全国大会の中止等、緊急時の連絡をいたします。
- ⑤領収書は大会当日に受付にてお渡しいたします。

(5) 『大会発表論文集』について

『大会発表論文集』は大会期間中の受付にて手渡しいたします。

(6) 発表について

- ①自由研究発表は、**発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分**です。発表者、司会者共に時間厳守にご協力ください。
- ②当日発表資料を配布される場合、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上をご用意

の上、発表当日ご持参ください。なお、大会実行委員会宛ての発表資料の送付はお断りいたします。また、発表資料が不足した場合、大会実行委員会での増し刷りもお断りいたします。

- ③発表会場にはプロジェクター、スクリーンが備え付けられております。パソコンは備え付けがありませんので、各自ご準備ください。
- ④自由研究発表の会場は、両日ともに8時半に開場いたします。接続や動作のチェックは開場から9時の開会までの間の時間か、各自の発表時間内をお願いいたします。
- ⑤プロジェクターとの接続はHDMIケーブルのみ可能です。PCにHDMI出力がない場合は、必要な変換アダプターを各自ご準備ください。

(7) 無線 LAN システムについて

会場では eduroam（無線 LAN システム）をご利用いただけます。勤務校等で ID の取得をしてご参加ください。

(8) 書籍販売、参加者休憩室について

21 教室では出版社による書籍販売、31 教室には参加者休憩室がございます。参加者休憩室にはお菓子やお飲み物を準備しておりますので、ご自由にご利用ください。

(9) 会場アクセス

キャンパス内の駐車場はご利用になれません。できる限り公共交通機関のご利用をお願いいたします。お車でお越しの場合は、キャンパス周辺のコインパーキングをご利用ください。

【水戸駅からのアクセス】

乗車：JR 水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」

下車：「茨大前」で下車。時間帯によっては、「茨大正門前」（最寄り）で下車することができます。（バス乗車時間は約 25 分）

※詳しくは茨城大学専用のバス案内ページ (<https://www.ibako.co.jp/regular/univ/ibaraki-univ.html>) をご覧下さい。

【その他】

その他のアクセス方法については大学 HP をご覧ください。

茨城大学水戸キャンパス HP : <https://www.ibaraki.ac.jp/m/campus/mito/index.html>

(10) 全国研究大会参加時の保育費支援制度について

本学会では、全国研究大会参加時の保育費支援制度があります。制度規定および利用申請書は本学会の web サイト (http://socialstudies.jp/ja/about_notice.html) よりご確認ください。お申込みの場合は、大会事務局ではなく学会事務局に直接お申込みください。

(11) 問い合わせ先

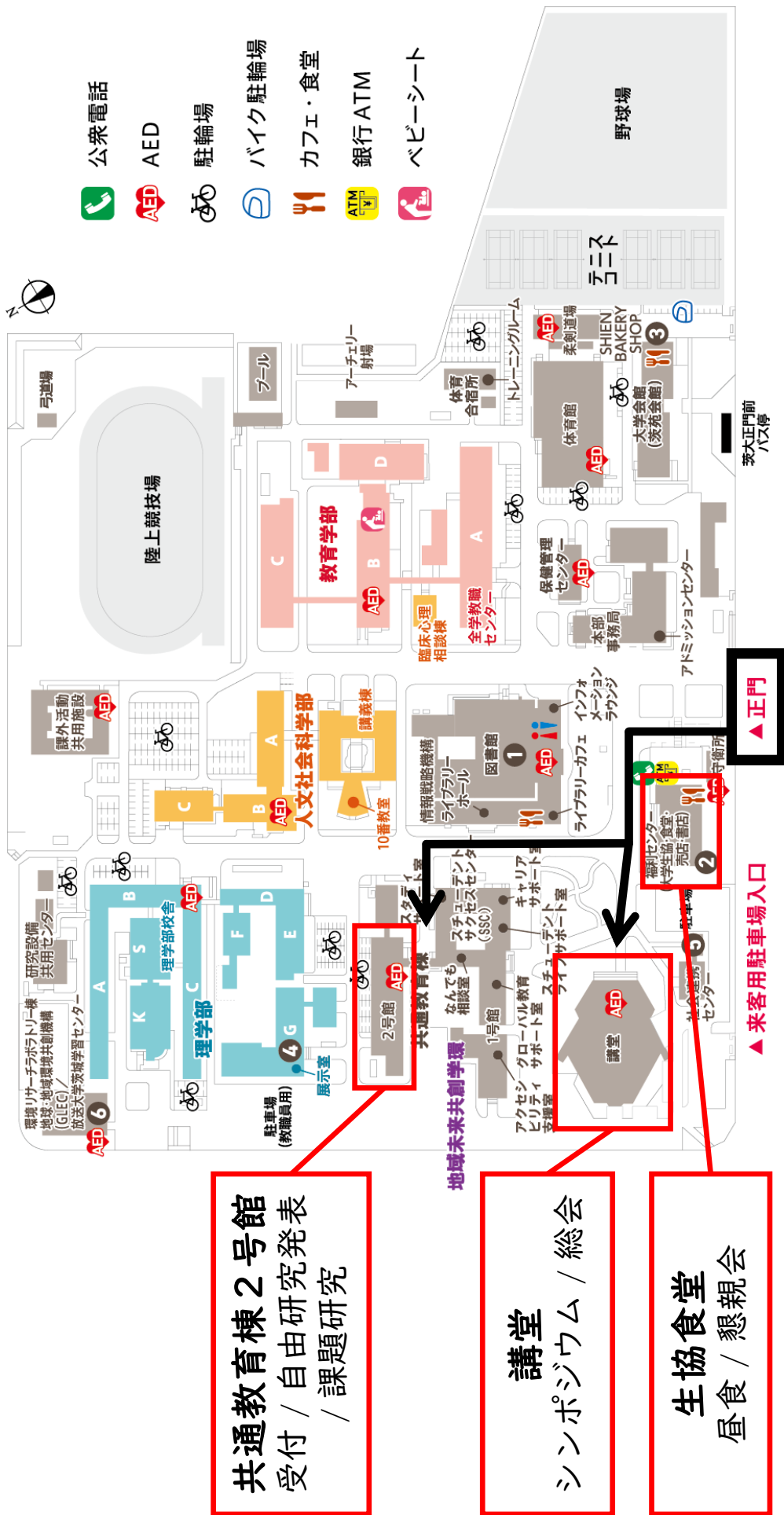
住所：〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1 茨城大学教育学部

日本社会科教育学会第 75 回全国研究大会事務局（担当 金久保 響子）

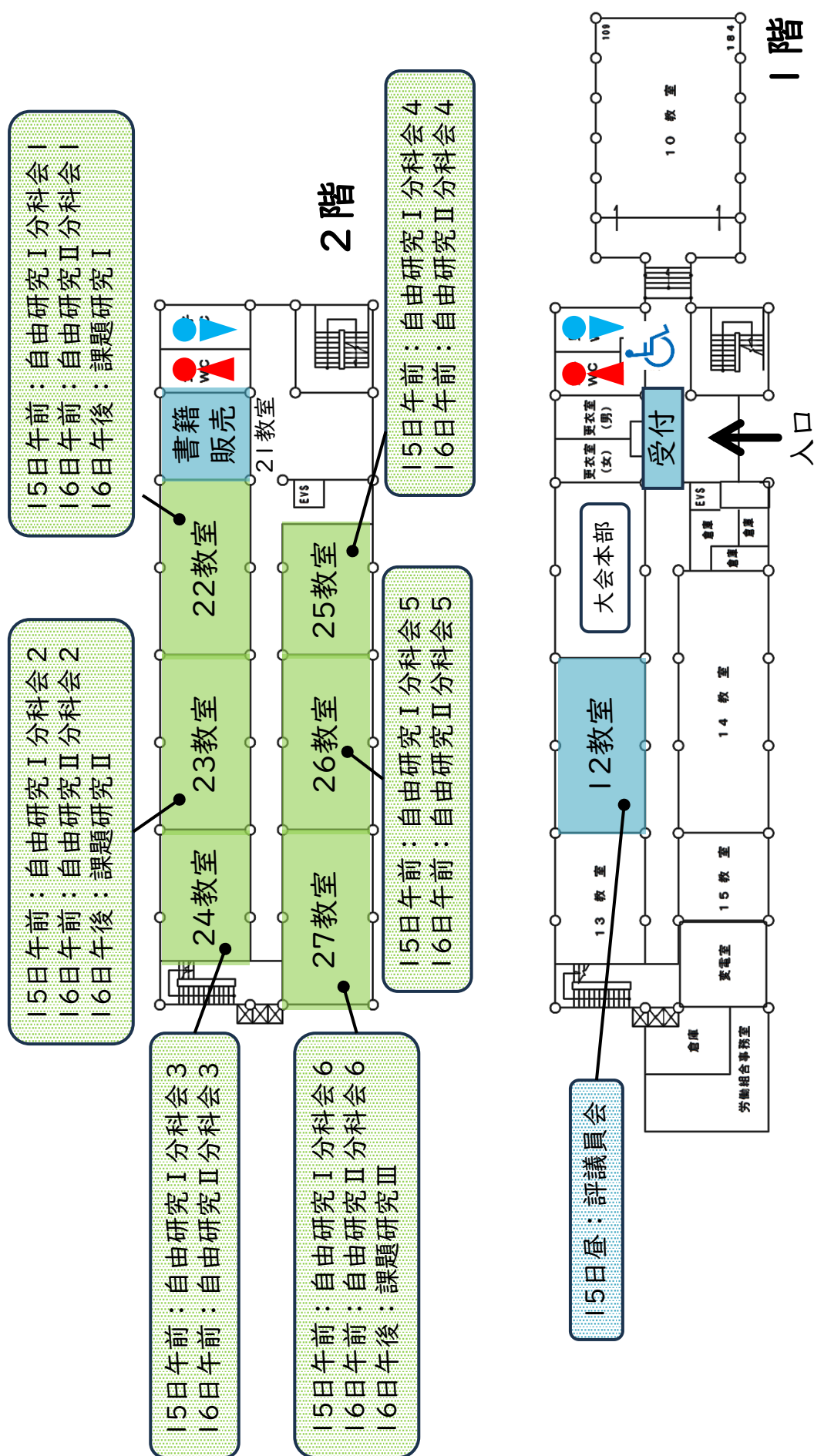
E-mail : jass75ibaraki@gmail.com

※お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします。

茨城大学水戸キャンパスマップ。



共通教育棟2号館 教室配置図



共通教育棟2号館 教室配置図

